

授業科目名	観光産業分析	担当教員	高橋 一夫
必修の区分	選択		
単位数	1 単位		
授業の方法	講義		
開講年次	1 年 第3クォーター		
講義内容	<p>観光立国推進基本法では、観光立国の実現のために、観光産業における国際競争力の強化を4つの柱の内の一つに据えている。そして、そのためには人材の育成が必要であることを指摘している。各種の観光産業が求める人材として必要な知識と理論とはなにかを、各種の観光産業のビジネスモデルを分析することで理解をしていく。</p> <p>この講義では、観光産業の中核を担う業界を中心に、その事業の本質と事業展開、及びイノベーションによるビジネスモデルの変化について言及する。その分析の中からビジネスモデルの優劣の判断基準、設計の思想を導き出していくとともに、そのビジネスモデルがなぜうまくいっているのか、あるいはなぜうまくいかないのかを各種の理論をもとに分析する。</p>		
到達目標	<p>今後2年生以降で受講する観光関連産業の講義及び実践的教育のための入り口となるビジネスモデルの知識と理論を身につける。</p> <p>1. 観光関連産業にかかわる理論を身につける</p> <p>2. ビジネスモデルの優劣の判断、設計の思想を知る</p> <p>3. 観光関連産業と地域の観光事業のビジネスモデルの実例を知る</p> <p>4. 自ら志望する観光産業への志望理由を明確にしていく</p>		
授業計画	<p>1 ビジネスモデルとはなにか。身近なコンビニエンスストアから考える</p> <p>2 授業1の議論をもとに理論解説(ビジネスモデルの優劣の判断、設計の思想)</p> <p>3 ケーススタディ) 世界のレストランを即時予約するオープンテーブル</p> <p>4 授業3の議論をもとに理論解説(リーン消費)</p> <p>5 ケーススタディ) 観桜期の吉野山の大渋滞の解消</p> <p>6 授業5の議論をもとに理論解説(観光における共通価値の創造)</p> <p>7 ケーススタディ) ローコストキャリアは「安かろう悪かろう」なのか</p> <p>8 授業7の議論をもとに理論解説(ショストックの分子モデル)</p> <p>9 ケーススタディ) 集客施設の欠点をなくしたキッザニア</p> <p>10 授業9の議論をもとに理論解説(集客施設の繁閑運営管理)</p> <p>11 ケーススタディ) アライアンスがもたらす新たな価値(レガシーキャリア)</p> <p>12 授業11の議論をもとに理論解説(範囲の経済性)</p>		
事前・事後学習	<p>予習内容：教科書の指定の章を読み、分からない語句や理解しづらい箇所を抜き書きしておくこと</p> <p>復習内容：授業で指示する箇所、内容について復習すること</p>		

テキスト	石井淳蔵、高橋一夫編著『観光のビジネスモデル』学芸出版社（2011 年 12 月刊）
参考文献	講義の中で指示をする。
成績評価の基準	最終レポート 70%、授業中課題 30%
履修上の注意履修要件	観光経営学とセットで受講することが望ましい（必須ではない）。
実践的教育	該当しない。
備考欄	定員超過の場合、抽選により履修者を選定する。